

総務委員会会議録（要点筆記）

令和8年7月14日（火）
午前10時00分 開議

○委員長（田中嵩久）

ただいまから、総務委員会を開きます。

協議題1「議会事業評価について」を行います。

今年度、当委員会が実施する議会事業評価の対象事業は「人事管理事務」、「STATION Ai活用事業」の2事業になります。

本日は、事業に関する知識を深めるため、対象事業の勉強会を行います。

Siedebooks に事業に関する資料及び議会事業評価の手引きを保存していますので、ご確認ください。当局は、昨年度の課題の中でも、今年度既に改善している点があれば、その旨をご説明ください。また、委員の皆様は、改善済みの内容に関しては、質疑を行わないようにお願いします。それでは、最初に、「人事管理事務」から行います。当局から事業の説明をお願いします。

○毛利悦子人事課長

[資料に基づき説明]

○委員長（田中嵩久）

説明は終わりました。ご質疑ありませんか。

○坂井美穂委員

職場環境アンケートの回答数について、管理職・監督職員232名中188名、一般職員479名中359名とありますが、回答率が100%にならない理由は何ですか。また、改善策はありますか。

○毛利悦子人事課長

アンケートの回答率が100%ではない理由については、はっきりとわかっていません。アンケートは無記名としていますが、分析のために部署を回答することとしており、個人が特定されやすい人数が少ない部署などは、回答を避ける人も中にはいるのではないかと感じています。

また、回答を忘れてしまった職員もいると思いますので、繰り返し掲示板で期間中に回答するように呼びかけを行いました。回答率100%には至っていません。

なお、令和6年度の回答率は、管理職・監督職員が58%、一般職員が61%となっており、若干改善しております。

○坂井美穂委員

回答結果を分析するための有効回答数の設定はしていますか。

○毛利悦子人事課長

こちらで数値として基準を設けているわけではありませんが、分析のやり方を業者に相談しながら進めてきました。

全体の数値として記載していますが、部署によっては回答率が低いと、課別の分析結果で、「有効回答が少ないので、コメントができません」といった部署も中にはありました。

○坂井美穂委員

部署の回答数が非常に少ない中で、これが部署の回答とするのではなくて、まずは、回答数の問題を解決していただきたいと思いますが、いかがですか。

○毛利悦子人事課長

課別の分析を正確にするためにも回答率を100%に近づけていく努力が必要だと思います。

令和6年度に最初のアンケートを実施したときも、回答率が全体の6割程度だったため、所属長からは、これは一部の人の意見ではないかという意見があったと記憶しています。それがないように、できるだけ回答率を上げる努力をしていかなければいけないと思います。ただ、無記名のアンケートなので誰が回答していないかは分からず、回答率があまり高くないというところで組織に対する信頼があまり高くなかったのかなと感じています。

人事課としては、このアンケート結果をうまく活用して職場改善に繋げていくことを職員に伝えていくことが、今後回答率を引き上げていくことに繋がると感じています。

○鈴木英華委員

委託業者が2回実施する伴走支援について、具体的にどんなことを行っていますか。

○毛利悦子人事課長

5つの部署に対して、所属長に対する面談を業者に実施してもらいました。

1回目では、各課のアンケート結果に応じて、どんな手法をとるか、どんな改善の可能性があるかを所属長と業者、人事課の三者で話し合いをします。

次に、10月から2月の間に、例えば、人事評価の面接で、こういうことを部下に伝えるようにしましょうといったことを課長から監督職に伝える、定期的に課長と監督職でミーティングをする、1on1といわれる話し合いをやってみるなど課によって実施することは違いますが、アドバイスを受けながら所属長が決めたことを取組みます。

それに対して、結果がどうだったかを聞き取る中で、さらにできることはないかという話し合いを2回目で実施するという形で行いました。

○鈴木英華委員

フォローアップは主に所属長に重点的にやっていますが、この内容を一般職員に共有していますか。

○毛利悦子人事課長

一般職員への展開については、各課によってアンケート結果が届いた時点ですぐに話し合ったところがあれば、監督職だけと話し合った部署もあり、各課のやり方に任せている状況です。

○副委員長（沢田清）

回答率が100%ではないことに関して、答えない人の中には、職場に対して不安とか不満がなく、今の職場で良いと思っている人もいるのではないかと思います。いかがですか。

○毛利悦子人事課長

そういった可能性もあるかもしれませんが、回答しなかった方がどういう思いで、回答しなかったかというところは、分かりません。

○新美保博委員

職員のためにやっている中で、回答率が100%になっていない、回答率が低いことは、問題だと思います。職員がやりたいことはあるけど、こういうことが壁になってやれない、ということに答えることは、ゆくゆくは、市民サービスを向上させ、市民に半田市に住んでよかったと思ってもらうことに繋がると考えます。答える職員がいないという状況が生まれており、いろんな手法がある中で、この事業を採用した理由は何ですか。

○大木康敬企画部長

この事業は、職員が気持ちよく、向上心を持っていろんなことにチャレンジして仕事をきちんとやっていく、そして、それが市民サービスの向上に繋がるものだと思います。

より良い職場にしようと思って実施していますが、回答しない人の理由については、把握できていません。今回の結果だけでいけば、8割ぐらいの回答率ですので、大筋回答そのものとしての意見は間違っていない数値だと考えますが、100%を目指していきたいと思っています。来年度以降、この事業を継続していく場合は、きちんとそういった目的

も一般職員に理解をしていただきながら、しっかりと目的を持って回答するような形を考えていかなければいけないと思います。

○新美保博委員

市民サービス向上が第1なのか、職場環境をよくすることが第1なのかどちらですか。

○毛利悦子人事課長

この事業の狙いは職場環境の改善、職員が働きやすい職場をつくることです。その先には、市民サービスの向上があると考えています。

○新美保博委員

全体の話を考えてときに何を目的としていますか。半田市がいいまちだ、住みよいまちだというのを作ろうとしている中の一つとして、職場環境も良くしようということがあると思いますが、最終的な目的が決まっていないと感じます。

どういうまちを作っていくのか、そのためにはどういうことをやらなければいけないか、という幹を作って欲しいと思います。その筋書きができているかどうかを聞かせてください。

○委員長（田中嵩久）

休憩します。

午前10時38分 休憩

午前10時44分 再開

○委員長（田中嵩久）

この事業のビジョンやゴールをどのように考えられているか、教えてください。

○毛利悦子人事課長

アンケートは今後も継続し、課題を把握していくことが必要だと思います。それに対する伴走支援やセミナーなどのやり方については、今後の状況によって変わってくると思います。また、良い職場作りのノウハウが積み重なってれば、こんな取組みを過去にしたという情報共有を行うことで、アンケートのみで対応できる可能性もあります。

他の自治体では、モチベーションサービスなどシステムを導入して実施している自治体もありますが、2、3年やって改善するものではないと思いますので、数値の把握はしていく必要があると思います。

○坂井美穂委員

人事異動で人の入れ替わりがあると管理職の資質やチーム編成によって、結果が変わると思います。ノウハウの蓄積の部分で対応できるか疑問が残りますが、その点は、どう考えていますか。

○毛利悦子人事課長

アンケート結果が大きく変わったのであれば、人事異動による管理職の影響なのか人員の変更による影響なのか、様々な要因があると思われます。

結果が去年と今年で違うのであれば、どこに違いがあるかというところを分析できると考えます。

○加藤美幸委員

アンケートは無記名となっていますが、オンライン回答ということで、端末によって誰がどこから回答したということは分かりませんか。

また、産休や育休に入っている人にもアンケートは実施していますか。

○毛利悦子人事課長

回答方法はオンラインで職場のパソコンや自身のスマートフォンで回答ができる状況になっていますが、仕組みとして誰がどこから回答したかはわかりません。

また、アンケート実施時に在職している職員を対象としているため、産休・育休の職員へのアンケートは実施していません。

○有留麻由委員

アンケート結果の分析として、例えば「仕事にやりがいがあり、働き続けたいと感じている。家族や友人に勧めたい」など、そう思う、思わないという理由まで分析できていますか。

○毛利悦子人事課長

質問項目によって、自由記述欄でなぜそう思うのか、書く欄があります。集計結果には出てきませんが、分析は可能です。

○有留麻由委員

処遇についても、アンケートに答える中で関わってくるとは思いますが、処遇に関する改善はしていきますか。

○毛利悦子人事課長

質問の項目としては、職場環境に焦点を当てているので、処遇について、調べる項目はありません。ただ、お休みなどの部分は、自由記述欄で職場に対する不満ということが出てきているかもしれないと思います。

○有留麻由委員

自由記述で出てきたところも、今後の改善点として、人事課で改善する努力をしていくということによろしいですか。

○毛利悦子人事課長

全て対応することは難しいと思いますが、自由記述欄の部分もしっかりと受け止めていきたいと思います。

○委員長（田中嵩久）

他にご質疑はありませんか。

【「なし」との声あり】

ないようですので、以上で「人事管理事務」についてを終わります。

しばらく休憩します。

午前10時52分 休憩

午前11時02分 再開

○委員長（田中嵩久）

それでは休憩を解き、委員会を再開します。

次に「STATION Ai 活用事業」について行います。

当局から、事業の説明をお願いします。

○内田敦士企画課長

【資料に基づき説明】

○委員長（田中嵩久）

説明は終わりました。本事業に関して、ご質疑ありませんか。

○坂井美穂委員

今後の展開について、令和7年度にいろんな意見交換をして、具体的な協議段階に進めなかったり、継続的な取組みにならなかったりしたということですが、現時点での地域課題と言われるものには、どのようなものがありますか。

○内田敦士企画課長

地域課題は非常に多くあります。テーマの中心として挙げたものは、働く方への応援ということで子育て関係のものです。それぞれがすごく漠然としていますので、より具体的な方がいいということで、畜産臭気の問題を解決する方法について、提案募集をしたことがあります。

○坂井美穂委員

地域の事業者から課題や解決策はないかなど、STATION Ai を活用して取組めないかと

いった相談はありませんか。

○内田敦士企画課長

商工会議所を始め、お声掛けをさせていただいております。ただ、あまり STATION Ai を活用して何か解消していきたいというような声は、多くないのが現状です。

本市としては、昨年度末に省力化を目指すという点で、AI も含めて、人が少なくてもできるような提案をしてくれる企業を募集したり、市内の事業者にもお声がけして、何社か STATION Ai に来ていただいて、プレゼンテーションを見に来ていただいたりしました。その後、プレゼンテーションをしてくれた会社と、市内の事業者が打ち合わせをするということを行いました。

○加藤美幸委員

担当職員と企画課が中心となって、STATION Ai の情報を市役所側に持ち込んでくるという流れでよろしいですか。

○内田敦士企画課長

STATION Ai の会員制度は、法人会員ではなく、個人会員になります。したがって、担当職員のみが会員になっているため、他の職員は、予約や招待を受けないといけない形になっています。そういった点では、中心になるのは、担当職員になります。

○加藤美幸委員

STATION Ai でのノウハウや交流を深めてきたことについて、市に持ち帰ってどのように活用していますか。

○内田敦士企画課長

ある程度話ができる状況になった企業やこの企業がこういうことを提案していますということを課内で情報共有しています。

その上で、担当部署に情報提供したり、STATION Ai やオンラインまたは市役所で打ち合わせをしたりするということを担当職員の采配で実施しています。

○新美保博委員

STATION Ai を活用して、何かをやろうということが今は見えてきていないが、これから提案があるかもしれないし、今後先に進んでいくことなのかもしれないという中で、予算を拡大することで、これからの可能性が広がるということはあるですか。

○内田敦士企画課長

職員が複数いたら、見る目も変わってくるので事業が広がる可能性はあると考えますが、人をプラスとするのであれば、市の職員よりも、商工会議所の職員や民間企業の方を巻き込んで、民間の輪を広げて、プレゼンしたり、企業同士が繋がったりする方が、良い結果になるのではないかと考えています。

○新美保博委員

例えばそれができたときに、それは半田市のためになるのか、もっと大きな組織の中で事業を考えて、みんなが潤う世界を作り上げようとするのか、どちらですか。

○内田敦士企画課長

スタートアップ企業は、隙間を埋めていくような事業者が多くなっています。私たちは、パートナーシップ企業と言われていますが、スタートアップ企業を支援する役割もあります。そこが半田市で起業してくれれば、メリットになりますが、そうでなくても、そういう企業に半田市をテスト市場で使ってもらって、企業が大きくなっていくことは、日本にとっても半田市にとってもいいと思いますので、もっと広いところで考えている部分もあります。

○加藤美幸委員

令和7年度の取組みの主な成果について、企業との意見交換・対話の分野として、健康・観光・DX・子育て・教育・福祉・地域産業とありますが、防災がないのは、STATION Ai

の活用がなかったということですか。

○内田敦士企画課長

防災安全課に案内したケースはありません。ただ、学校での子供の見守りカメラみたいな部分では、お話をしたことがあります。

○委員長（田中嵩久）

他にご質疑ありませんか。

【「なし」との声あり】

ないようですので、以上で「STATION Ai 活用事業」についてを終わります。

以上で対象事業の勉強会は全て終了しました。

本日の勉強会の内容を踏まえて、各委員は議会事業評価シートを作成し、7月28日（火）16時までに事務局へ提出してください。

様式については、本日メールで送付します。

本日の資料3-2事業評価シートの様式をご覧ください。作成にあたって、「3. 成果指標に対する評価」のうち、「成果指標」については、新しく今年度組み込まれたものになります。こちらは、当局が作成した事業評価シートに記載される予定で、8月上旬に議会に提出されるものです。したがって、現段階での評価ができない状態になっております。この事業評価の成果指標以外のところを皆様には7月28日までに記入していただき、成果指標については、9月の委員会にて皆様で協議をして、委員会として記入させていただきたいと思います。

それでは、次回の事業評価に係る委員会は9月8日（火）9時30分から行います。皆様から提出頂いたシートを元に委員長案を作成しますので、そちらについて協議を行う予定です。この件につきまして何かありましたらお願いします。

【「なし」との声あり】

ないようですのでこの件は終了します。

続きまして協議題2「その他」について行います。

他に委員から何かございませんか。

【「なし」との声あり】

ないようですのでこの件はこれで終了します。

以上で本日の予定をしておりました議事は全ていたしました。

これで総務委員会を終わります。

午前11時29分 散会